

ごみの減量に取り組んで 20 年余り

NPO 法人 小平・環境の会
共同代表 島 京子

<映画「水からの速達」をきっかけに>

「水からの速達」という日の出のごみ処分場問題を描いた映画の上映会がきっかけで、自分たちが日々出しているごみが、日の出町のごみ処分場周辺住民に大変な迷惑をかけていることを知りました。ごみ処分場のゴムシートが破れ、水源に汚染物質が漏れ出していること、行政はその被害をひた隠しにして、第2 処分場を造ろうとしていることも。

<ごみの減量化に取り組む>

日々ごみを排出している自分たちの生活を見直し、少しでもごみの排出量を減らそうと、1995 年「環境を考える市民の会」として、私たちの活動は始まりました。活動を続けていく中で、まずは「生ごみを燃やすのはもったいない」との思いから、生ごみをごみにしない方策の一つとして、生ごみの堆肥化を考えました。小平市に働き掛け、小学校給食の残渣を乾燥処理する機械の導入を実現し、この乾燥処理物は肥料会社に送られ堆肥の原料になっています。

また現在、小平市では市のモデル事業として一般家庭の生ごみを回収して堆肥化する「食物資源回収」を広げています。これと並行して、自分たちも生ごみ堆肥を作り、野菜の生育実験をやってみようと、2003 年から畑部会を立ち上げ、近隣の農家の協力を得て、小学校給食の生ごみ乾燥処理物と腐葉土、米ぬかなどから堆肥を作り、野菜の栽培を始めました。実際に生ごみ堆肥で作った野菜の美味しさに感動し、以来畑作業は自分たちの「楽しみ」になりました。

<福島原発事故によりごみの堆肥化を断念>

しかし、2011 年の福島原発事故により、畑は放射能に汚染され、作物からも放射能が検出されてしまいました。腐葉土の汚染により、生ごみ堆肥を作ることも諦めざるをえませんでした。当初は、まだ「ちくりん舎」が開設されていなかったため、他の放射能測定室に測定を依頼していましたが、ちくりん舎の立ち上げ以降、正確さと測定料金の良心的なことから、ちくりん舎に測定を依頼するようになりました。畑は、何度も耕していくうちに放射能レベルが下がり、2011 年の冬以降は、作物からの検出はなくなりましたが、土壌や落ち葉からは、まだ放射能が検出されています。

<設立 20 周年を迎え、さらなる活動の継続を>

小学校給食残渣の乾燥処理機導入とほぼ時期を同じくして、小平市内のイベントで使い捨て食器を使用しないですむように、「貸し出し食器」の導入も働き掛け、これも実現しました。又、昨年は会設立 20 周年という事で、記念事業として、「プラスチックごみ～この処理困難物をどうする?～」という冊子の発行ならびに、映画の上映会とシンポジウムを開催しました。今後も、更なるごみの減量と資源循環、環境保全を目標に、活動を続けて行きたいと思います。

